

地域住民による

自主的な避難所運営ガイドライン

令和8年3月

山口県

1 はじめに

平成28年に起こった熊本地震では、短期間のうちに2度の震度7という地震が発生したことで、多数の家屋倒壊等により、多くの住民が避難所への避難を余儀なくされました。避難所数及び避難者のピークである平成28年4月17日（本震翌日）には、避難所設置箇所が855箇所、避難者数が183,882人となるなど、県民の1割以上の方が避難を行いました。

そのような中、「コミュニティースクール」など地域の連携・協働が定着していた地域では、地域主導で自主的な避難所運営がうまく行われていた一方で、避難者による自主運営への移行が困難な避難所も多く、避難所運営に多くの行政職員、教職員が従事することとなり、本来実施されるべき復旧・復興業務に支障を来したという課題が報告されています。また、新型コロナウイルス感染症の流行や令和6年能登半島地震を経て、感染症対策の強化や生活環境の改善等、避難所運営に求められる要件、課題も日々変化しつつあります。

このような状況に鑑み、地域住民が自主的に避難所運営に携わることで、被災市町職員が早期に復旧・復興業務に移行できることは、被災市町がいち早く生活再建への第一歩を踏み出すためにも重要であることから、平時から避難所運営に携わる関係者が連携し、避難所運営について考え・取り組む参考となるよう「**地域住民による自主的な避難所運営ガイドライン**」を作成しました。

当ガイドラインを参考に、地域オリジナルの「避難所運営の手引き」を作成することで、地域において自主的な避難所運営を推進するために御活用ください。

2 ガイドラインの構成

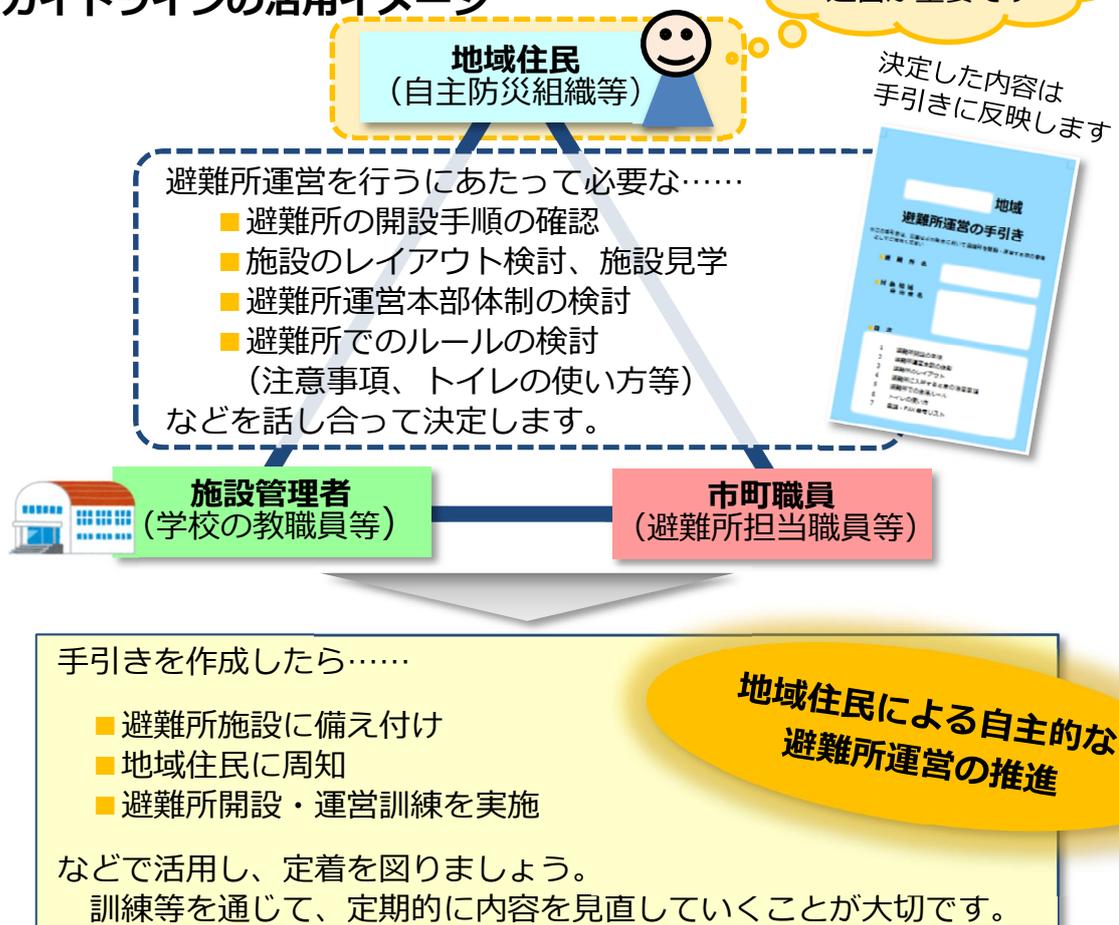
避難所運営ガイドライン 本編	・・・・・・・・・・ 4
■ 避難所開設の手順	
■ 避難所運営本部の体制	
■ 避難所のレイアウト	
■ 避難所に入所するときの注意事項	
■ 避難所での生活ルール	
■ トイレの使い方	
■ 連絡先・FAX番号リスト	
避難所運営の手引き 書き込み用	・・・・・・・・・・ 14
避難所運営ガイドライン 資料編	・・・・・・・・・・ 24
■ 避難者名簿の作成	
■ 地域の防災備蓄倉庫の確認（市町防災倉庫）	
■ 地域の防災備蓄倉庫の確認（自治会防災倉庫）	
■ 地域防災マップの作成	
■ 災害時に役立つ資機材・サポート人材リストの作成	

3 ガイドラインの活用方法

(1) ガイドラインの活用ポイント

- 当ガイドラインは、地域住民が避難所運営を行うにあたって参考となるよう、わかりやすく、ポイントをしばった内容としました。
- 当ガイドラインを参考に、避難所運営に携わる『**地域住民（自主防災組織等）**』『**施設管理者（学校の教職員等）**』『**市町職員（避難所担当職員等）**』が一同に介し、避難所のレイアウトや運営方法等を話し合ひましょう。話し合い等を通じて決定した内容は、「避難所運営の手引き 書き込み用」に記載し、地域に特化した『**避難所運営の手引き**』を作成してください。
※レイアウト等を検討する場合は、実際に施設見学を実施し、部屋・備品の配置や危険箇所の有無等、どこになにかがあるのか確認しておくとい良いでしょう。
- 作成した手引きは、避難所となる施設に備え付けるなど、平時から地域住民に周知を図るほか、手引きを元に、避難所開設・運営訓練などを実施し、定期的に内容を見直すことが大切です。
また、災害時にすぐに活用できるよう、掲示物や避難者カードなどは事前に印刷して準備しておくとい良いでしょう。
- 災害時、避難者がこの手引きを参考にすることで、地域住民による自主的な避難所運営に取り組めるよう、日頃から備えておきましょう。

(2) ガイドラインの活用イメージ



4 活用事例の紹介

当ガイドラインの作成にあたり、防府市小野地域において実施したモデル研修の概要を紹介します。

- 指定避難所名 防府市立小野小学校
- 参加者 地域住民：防府市小野地域自治会連合会自主防災会役員
施設管理者：防府市立小野小学校教員
市町職員：防府市防災危機管理課職員
研修コーディネーター：(一社) 減災・復興支援機構

(1) 平成29年11月14日(火) 研修1回目

過去の被災地における避難所の状況を学んだ後、学校図面を使って避難所のレイアウトを検討しました。また、避難所に入所する際の注意事項や、避難所で起こり得る課題について検討しました。



施設管理者の意見を聞きながら、避難所として利用できるスペースと立入禁止のスペースを確認した上で、利用できるスペースを活用して避難所のレイアウトを検討しました。

(2) 平成29年11月28日(火) 研修2回目

前回作成したレイアウト図をもとに施設見学を行い、相応しいレイアウトとなっているかを確認しました。また、避難所での生活ルールや、トイレの使い方を検討しました。



実効的なレイアウトになっているか、施設見学をして確認しました。要配慮者の入所に適したスペースになっているか、女性専用スペースの鍵やカーテンの有無、物資置き場へのトラックの搬入路なども確認しました。

(3) 平成29年12月12日(火) 研修3回目

前回までの話し合いで決定したレイアウト図や注意事項等について意見交換を行い、『防府市小野地域避難所運営の手引き』を完成させました。



実際の避難所運営をイメージしながら、レイアウト図や注意事項等の内容について再検討し、地域オリジナルの『手引き』を作成しました。

(4) 平成29年12月23日(土) 避難所開設・運営手順確認訓練

『防府市小野地域避難所運営の手引き』をもとに、避難所開設・運営の手順や避難所運営本部の役割確認を行ったほか、防災倉庫内の備蓄品の確認を実施しました。



作成したレイアウト図等を避難者にわかりやすいように掲示。



避難所運営本部の各班の役割を確認。



防災倉庫に備えてある備蓄品を確認。

防府市小野地域では、小野小学校の体育館に手引きを備え付け、地域の防災訓練で活用しています。